

1 研修プログラムの目的及び特徴

形成外科医に必要な知識と専門診療技術の修得およびそれらの応用能力の獲得を目指す。

また患者-医師、医師-医師、パラメディカル-医師のそれぞれの良好な関係を構築でき、優れたチーム医療を主宰できるような全人的な教育を行う。さらに将来リーダーとして後進の医師を指導できる教育能力と、診療の成果を学会や論文によって発信し医療を発展させる能力の養成も行う。

2 研修指導責任者

吉良 智恵（形成外科部長）

1）研修指導医

吉良 智恵（形成外科部長）

鈴木 大助（形成外科医師）

重原 岳雄（形成外科医師）

3 研修内容と到達目標

（１）一般目標 (GIO)

形成外科疾患を適切にマネジメントするために必要な知識・技術を獲得するとともに、

患者を全人的に診療する姿勢を形成する。

主として皮膚腫瘍や瘢痕などに対する皮膚表面外科、顔面の外傷や先天異常、手の外科な

どにつき形成外科診療に必要な基本的知識や手技を習得する。

行動目標 SBOs:

1) 形態ならびに機能異常を持った患者の特異性を十分に認識し、患者を全人的にとらえ、

患者および家族との正しい人間関係を確立することができる。

2) すべての情報、治療内容を正しく記録する習慣を身につける。

3) 全身の診察を正確かつ要領よく行える。

4) 顔面外傷において、所見を記述し、重要な骨・軟部組織の損傷や機能障害の診断ができる。

5) 手の外傷において、種々の所見を正確に記述できる。

- 6) 新鮮熱傷の所見を記述できる。
 - 7) 形成外科的皮膚疾患の診断ができる。
 - 8) 頭蓋顎顔面の形態異常の診断ができる。
 - 9) 耳介・外鼻・眼瞼部の形態異常の所見が記述できる。
 - 10) 顔面神経麻痺の診断ができる。
 - 11) 唇裂・口蓋裂の診断ができる。
 - 12) 四肢先天異常の所見を正確に記述できる。
 - 13) 頭頸部・軀幹・四肢の各種腫瘍の診断ができる。
 - 14) レーザー治療の対象疾患の診断ができる。
 - 15) 内視鏡手術の適応疾患を診断できる。
 - 16) 微小血管手術の適応について述べることができる。
 - 17) 基本的形成外科処置・手術を行うことができる。
 - 18) 応用的形成外科処置・手術をある程度行うことができる。
- ※1 形成外科的治療法について

基本的形成外科処置・手術

- ① 熱傷処置
- ② 切開排膿
- ③ 創部の洗浄処置④ デブリードマン⑤ 真皮縫合
- ⑥ 皮膚腫瘍切除術
- ⑦ 皮下腫瘍切除術
- ⑧ 植皮術（採皮を含む）
- ⑨ 局所皮弁手術
- ⑩ Z 形成術・W 形成術による瘢痕形成術⑪ 顔面骨骨折非観血的整復術

応用的形成外科処置・手術

- ① 皮膚悪性腫瘍の切除・再建手術
- ② 顔面骨骨折観血的整復固定術
- ③ マイクロサージャリー手技を伴った手術④ 美容外科手術

4 学習方略 (LS)

- 1) 病棟研修 SB0s: 1)–3)
スタッフとともに入院患者の診察・回診を行い、問題点の整理、検査・治療計画に参加する
- 2) 外来研修 SB0s: 1)–14)
スタッフと共に外来患者の初見・診断・治療方針の決定に関わる
- 3) カンファレンス SB0s: 2)–16)

症例カンファレンスなどに参加し、症例のプレゼンテーションを行い、診断・治療方針の決定に関わる

4) 実技研修 SB0s: 17) 18)

指導医のもとで、形成外科特有の手技、手術を行う

週間スケジュール

	午前	午後
月	外来研修、	手術室研修
火	手術室研修、	手術室研修
水	外来研修、	手術室研修
木	外来研修、	外来研修、褥瘡回診
金	手術室研修、	手術室研修

5 評価 (EV)

研修医は PG-EP0C に自己の研修内容を記録、評価する。

実施責任者および看護師を含むチーム医療のスタッフが、研修医の診療および研修態度を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価する。なお、評価票はインターネット上のシステム（PG-EP0C 等）を使用する。目標達成状況を症例レポートから把握し形成的評価を行う。各評価をもって二年目修了前に研修管理委員会にて総括的評価を行い、修了判定の資料とする。

初版：令和4年1月24日

改訂：令和7年2月28日

令和7年7月1日